

後悔

大学生（21歳）

私が事故を起こしたのは、大学4年生の夏休みでした。その日は私の通っていた大学の近くにある居酒屋で夜の11時頃までアルバイトをしていました。夏休みということもあり、アルバイトが終わってから車で地元へ帰ろうとしていました。アルバイトが終わり、いざ帰ろうと思った時にふと、「どうせ帰るなら友人と遊びたい」と思い、地元の仲の良い友人に連絡をしました。友人は私と遊ぶことを承諾したため、私は地元まで3時間ほどかけて帰りました。そして深夜2時頃、友人の家に迎えに行き、さらにファーストフード店での飲食をしたり、ボーリング場で遊びました。

走っているのが目に入りました。しかし、私は特に何も考えず、100キロ近い速度で右車線に移り、原付に追越しを掛けました。しかし、その瞬間、原付が右折をしてきました。私はブレーキを踏む余裕はなく、車の左前方が原付と接触しました。私の車は道路右側の縁石に乗り上げる一方、原付は車のフロントガラスに激突し、フロントガラスは粉々になりました。

私は頭が真っ白になりました。しかし、自分が絶対にしてはいけないことをしたということは分かりました。私は放心状態になり車をそのままゆっくり走らせていました。友人からの「止まった方がいい。」という声で我に返り、車を止め、事故現場に走り出しました。そこには原付はなくなりました。そこにパトカーが来て、私は警察署に連行されました。そして、2時間後、相手の方が亡くなられた事を聞きまし

かし、現実には1人の大切な命を奪ってしまったことです。そのことにより深い悲しみに包まれている人達がいることを背負って生きなければなりません。

コンベニから再び車を走らせた後、私はさつき話したことを証明したいと思いました。そして、まだ朝方で道路には1台も車が走っていないから路を100キロを超える速度で走り出しました。途中、信号で止まった時に助手席の友人に「危ないよ。」と言われたのですが、今まで事故を起こしたことはなく、車の運転には自信がありました。当時の私は交通事故を起こすかもしれないという意識は全くありませんでした。

私は警察署に連行されました。そして、2時間後、相手の方が亡くなられた事を聞きまし

た。私は何が起きているのか全く理解出来ず、夢の中にいるようでした。それから1か月の時が経ち、裁判が始まりました。私はそこで初めて被害者のご遺族の方々とお会いしました。悲しむご遺族の顔を私は見ることは出来ませんでした。私の起こした事故により何の関係もないこの人達が悲しんでいる。私は本当になんてことをしたのだろうと思いました。また裁判を傍聴した私の家族にもどれただけ心に傷を負わせた

が勤務所に入ることなど、自分には全く関係のないことだと思っていました。しかし、今振り返ると、交通事故は誰が起しても不思議ではないと、当事者になって初めて心から思います。

友人は私と遊ぶことを承諾したため、私は地元まで3時間ほどかけて帰りました。そして深夜2時頃、友人の家に迎えに行き、さらにファーストフード店での飲食をしたり、ボーリング場で遊びました。

朝方4時頃になり、そろそろ帰ろうと友人を家まで送る途中、コンビニに寄り、駐車場でコーヒを飲みながら、

私は元には戻りません。命は今、後悔しています。

「贖いの日々」

朝方4時頃になり、そろそろ帰ろうと友人を家まで送る途中、コンビニに寄り、駐車場でコーヒを飲みながら、

私は元には戻りません。命は今、後悔しています。

「贖いの日々」

第49集(平成26年版)より抜粋
転載・二次使用を禁止します。

朝方4時頃になり、そろそろ帰ろうと友人を家まで送る途中、コンビニに寄り、駐車場でコーヒを飲みながら、

私は元には戻りません。命は今、後悔しています。

「贖いの日々」

第49集(平成26年版)より抜粋
転載・二次使用を禁止します。

朝方4時頃になり、そろそろ帰ろうと友人を家まで送る途中、コンビニに寄り、駐車場でコーヒを飲みながら、

私は元には戻りません。命は今、後悔しています。

「贖いの日々」

第49集(平成26年版)より抜粋
転載・二次使用を禁止します。

朝方4時頃になり、そろそろ帰ろうと友人を家まで送る途中、コンビニに寄り、駐車場でコーヒを飲みながら、

私は元には戻りません。命は今、後悔しています。

「贖いの日々」

第49集(平成26年版)より抜粋
転載・二次使用を禁止します。